



通信教育大学 地理的に分散する学生と教職員に提供 Second Lifeで共に学ぶ



ログインしてすぐにひらめきの瞬間を感じました。その瞬間から私はSecond Lifeを自分の教育に取り込んでいった、と言っても間違いありません。」

- Anna Peachey、遠隔教育センター大学院特別奨学生、数学、科学、コンピューティングとテクノロジー担当

要旨::

1969年に英国王室の認可を受け設立された通信教育大学（以下OU）は、英国最大かつ通信教育を通して国民に質の高い大学教育を提供する唯一の大学です。200万人以上がOUで学び現在15万人以上の大学生と3万人以上の大学院生がOUのプログラムに登録しています。70%の学生がフルタイムの仕事と学問を両立しており、フレキシブルなスケジュールは最優先事項です。物理的なキャンパスは英国Milton Keynesに一つだけ所在しますが、ここから離れた英国内外に住むOUの学生はローカルチュートリアル、郵便及び電話、インターネット、そしてSecond Lifeで授業に参加することができます。Second LifeのOUキャンパスでは、千種万様な学生のために今までと全く違った新しく活気のあるものを提供しています - 仮想コミュニティーで会って一緒に行動する機会です。

In one 7-day period the OU recorded 130 unique visitors spending a combined total of 216 hours in their virtual campus, Open Life.



成り立ち：遠距離通学を必要としない没入型遠隔学習環境を届ける

OUの使命は、「デザイン、内容、そしてサポートされた遠隔高等教育改革をアカデミックな研究、教育学的革新と共同作業を通して届ける、という分野での中心的役割を果たすこと」です。従って、何十年もの間OUスタッフは遠距離教育技術革



“If island themes match with what you are teaching, then they are a useful instrument for getting over skepticism and triggering creativity.”

– Dr. Shailey Minocha, OU Senior Lecturer of Human-Computer Interaction

新の最前線に立ってきました。先見の明のあるOUの専任講師Jacquie Bennett氏は、教育の新たな次元を発見しました – Second Lifeです。そうして2年後に初のOUアイランドが公開されました。

遠隔教育センターで数学、科学、コンピューティングテクノロジーを担当する大学院特別奨学生、Anna Peachey氏は、この発見は伝統的な教育にインパクトを与える大きな可能性を秘めた重要な新技術である、と友人や同僚が考えていたと語っています。「Second Lifeを見に行くべきだ、とJacquieが何度も言うので2006年10月についてそうしました。ログインしてすぐにひらめきの瞬間を感じました。その瞬間から私はSecond Lifeを自分の教育に取り込んでいった、と言っても間違いありません。」

仮想世界に学生を徐々に誘導する綿密な計画

OUの人間とコンピュータの相互作用シニア講師Shailey Minocha博士は、Second Lifeで広範囲に渡るインタビューを行ってきました。博士はなじみ深いものから空想的なものへの段階的移行には、まずは学生を安心させる空間を創ることが必要だと気づきました。

OUキャンパスへの新しい訪問者は、The NOUbie Centerで迎えられます。(Second Lifeの初心者という意味するnewbieにOUを取り入れたもの)学生ボランティアは「NOUbie」学生がSecond Lifeでどのように学び、6つのOU環境に慣れ親しむことのできるよう手助けします。Open Life、Open Life Ocean、Open Life Village、FIT Island、そしてDeep Think Iと IIです。

Peachey氏は、「学生はボランティアでバディになります。インワールドには大抵少なくとも一人は学生バディがいます。ですので初心者用建物で手助けが必要になった場合は、利用可能な写真をクリックすればIMが送信され、バディがあなたの所にやってきます。」と説明してくれました。

Minocha氏はOUキャンパスに限らない空間の学生ツアーを引率しています。心理学を学ぶ学生が直接精神疾患や障害の現象を体験することのできるVirtual Hallucinations Islandなどです。

「もし島のテーマがあなたが教えるものと一致していたら」、Minocha氏が言います。「懐疑的な見方を払拭させ創造力の発揮に役立つ道具となります。」



Open Life Village : 社会的相互作用を促進する仮想学生寮

OUの仮想キャンパスプログラムは、熱望される学生住居の需要に対応するためにPeachey氏がOpen Life Villageを構築し、2009年4月に正式公開されました。「みんなインワールドに入ると自分の家やアパートが欲しくなる、ということに気がきました。それで学生がSLを始めて間もない短期間のあいだ、無料で借りることができる寄宿舎を提供す



障害者、管理人、フルタイムで働く多くのOUの学生にとっては、家でくつろぎながら同僚との社会的コミュニティに参加できることで活力を与えてくれます。「Village green」、「Open Arms」英国パブ、個人住居、そしてビーチ地区は、アクティビティや学生が集う場として永続的な場所となりました。

ることにしました。」これが長期レンタルを希望するコミュニティにいち早く注目され、それに対応すべく新たな島が構築されました。60戸がすぐに賃貸され、もっと提供して欲しいと署名運動をする学生の待機リストがあります。

学生はSecond Lifeを教室や家として受け入れただけでなく、自分たちで計画するイベントにも活用しています。実際に現在200以上のOUイベントや会議が毎年Second Lifeで開催されています。

もちろん教育は教室や講義ホールだけで決まるものではありません。教育とはフレンドシップと将来の専門ネットワークを確立することで、この関係は社会的環境を最も繁栄させます。身体





教育者もSecond Lifeで学ぶ

Second Lifeにおける学生の相互作用の成功を見て、OUの人事課は職員研修にもSecond Lifeを利用できるのではないかと考えました。OU人事課アシスタントディレクターSteph Broadribb氏と人事プロジェクト役員Chris Carter氏は、意見を能率的に交換する職員の技術開発を目的とするプログラムを手がけています。

「強い影響の一つに、職員グループにロールプレースキルを自信を持って実践させる能力、というのがありました」とBroadribb氏言います。「私たちにとってこれはずっと現実世界での問題でもあり、多くの職員は活動をせず、時には参加拒否していました。Second Lifeで参加者は高いレベルのエネルギーを持って深く従事するようになりました。アクティビティを終わらせたくない人もいるほどです!」

“I had an epiphany moment as soon as I logged in. Safe to say that I incorporated Second Life into my teaching from that point forward.”

– Anna Peachey, Teaching Fellow with the Centre for Open Learning in Math, Science, Computing and Technology

OU、肥沃な土壌で文脈的学習カリキュラムを向上

ロールプレイはまた、人道的援助従事者を訓練するカリキュラムも促進します。Peachey氏と国際開発シニア講師Helen Yanacopulos氏は、「人道支援と開発訓練のSecond Lifeへの統合」と題する論文の共同執筆を行いました。通信教育大学のコース、紛争と支援で、人道支援と開発従事者がSecond Lifeで複合現実的学習を行う機会についてを研究しています。ツール、技術、そして対話。Second Lifeにおけるロールプレイによって、学生はより鋭く効率的な交渉及び共同技術を身につけ、現実の厳しい条件を乗り越えることができると信じています。

従事者訓練をするために戦闘や自然災害を管理するのは非常に高額で、論理的にみて至難の業です。Peachey氏とYanacopulos氏は、Second Lifeで行う訓練プログラムによって深く費用効率が良い学習の新しい形を育てることが



2008年9月のパイロットワークショップの後、参加者たちは、発言したり取り扱いきれない問題を扱う方法についてこんなに考えさせられたことは今までなかった、と言いました。以来さらに3件の職員研修会が行われ、現在数件進行中です。

できる、としています。「学生が自身の姿勢と信条を一時的に置いておくことにより、管理下のロールプレイでは、安全な環境下における個人的且つ慣れ親しんだもの以外への探索を促します。」

更なる拡大計画と共にSecond Lifeに参入して現在4年目と



なります。OUは仮想世界における学習によって、学生、教職員、管理人が現実社会で大きな成功を収めていることを証明し続けています。

Links

- Second LifeでのOUプログラム概要：<http://www.open.ac.uk/colmsct/activities/details/detail.php?itemId=478b5caf2c3f7>
- Open Life訪問：<http://slurl.com/secondlife/Open%20Life/104/37/25>
- To visit Open Life Village:
<http://slurl.com/secondlife/Open%20Life%20Village/84/57/30>



連絡先

日本語公式サイト：

<http://secondlifegrid.net/>

ランドストア：

<http://secondlife.com/land>

エンタープライズサイト：

<https://blogs.secondlife.com/community/community/education>

Twitter:

<http://twitter.com/ClaudiaLinden>

http://twitter.com/SECOND_LIFE_JP

SECOND_LIFE_JP

email: business@lindenlab.com

Second Life とLinden Labについて

2003年、Linden Labは3Dオンライン・ワールドの世界をリードするSecond Lifeの運営を開始しました。Second Lifeでは住人と呼ばれるユーザーがモノ作り、人との交流、起業、コラボレーション、教育に利用しています。繁栄するインワールド・エコノミーにより 2008年には消費者から教育者、そして医療研究者や大企業に至るまで幅広いユーザー層によって3億6千万米ドルの取引が行われました。Second Lifeは世界で最も発達したユーザー作成コンテンツ (UGC) の中心となりました。

Linden Labは、取締役会長フィリップ・ローズデールによって1999年に設立され、本社はサンフランシスコにあります。コミュニケーション、相互作用、学び、制作のやり方変える革新的な没入型技術の開発を行っています。非上場企業 Linden Labを率いるのはCEOのマーク・キングドンです。従業員数は米国、ヨーロッパ、アジアから300名以上になります。

Linden Lab

945 Battery Street

San Francisco, CA 94111

Copyright © 2009 Linden Research, Inc. 無断複写・複製・転載を禁じます。

「Linden Lab」、「Second Life」、「Second Life Grid」そして「Second Life」と「Linden Lab」ロゴはLinden Research, Incの登録商標です。

